

Four Library

読書ナビ

第28回 揺らぎのある文学 フィンランド文学翻訳家・末延弘子

『カレワラ』
(リョンロット編, 小泉保訳 岩波書店, 1976年)

『ムーミン』シリーズ (講談社青い鳥文庫)
(たのしいムーミン一家、ムーミン谷の彗星、ムーミン谷の夏まつり、ムーミン谷の冬、ムーミンババの思い出、ムーミン谷の仲間たち、ムーミンババ海へいく、ムーミン谷の十一月、小さなトロールと大きな洪水)
(トーベ・ヤンソン作・絵, 山室静、下村隆一、小野寺百合子、鈴木徹郎、富原眞弓訳 講談社, 1981-1999年)

『ヘイナとトッスの物語』シリーズ (講談社青い鳥文庫)
(麦わら帽子のヘイナとフェルト靴のトッス、トルステイは名探偵、大きいエルサと大事件、ヒラメ釣り漂流記)
(S.ノボラ&T.ノボラ作, 末延弘子訳, 佐古百美絵 講談社, 2005-2008年)

『リストとゆかいなラウハおばさん』シリーズ 全7巻
(謎のきょうはくじょうの巻、ぶつぶつソーセージの巻、はじめてのラブレター?!の巻、ヘンテコおばさんやってきた巻、恋のライバルあらわるの巻、こまったニキビで大事件の巻、ラウハおばさん、先生になるの巻)
(S.ノボラ&T.ノボラ作, 末延弘子訳, S.トイヴォネン& A.ハヴカイン絵 小峰書店, 2008-2009年)

『レベッカと夏の王子さま』
(トウイヤ・レヘティネン作, 末延弘子訳, 石井三捺絵 講談社, 2009年)

『木々は八月に何をするのか』
(レーナ・クルーン著, 末延弘子訳 新評論, 2003年)

『ウンブラ/タイナロン: 無限の可能性を秘めた二つの物語』
(レーナ・クルーン著, 末延弘子訳 新評論, 2002年)

『蜜蜂の館: 群れの物語』
(レーナ・クルーン著, 末延弘子訳 新評論, 2007年)

『羽根の鎖』
(ハンネレ・フオヴィ作, 末延弘子訳 小峰書店, 2006年)

『羽根をなくした妖精』
(ユルヨ・コッコ著, 渡部翠訳 晶文社, 1975年)

『リスとツバメ』
(マリア・ヴオリオ作, 末延弘子訳, ミカ・ラウニス絵 講談社, 12月刊行予定)

読み継がれてきた本には、何かしらの共通点があります。それは、何度読んでも覚える新しさや懐かしさだと思います。新しさや懐かしさを感じるのは、そこにひとつかみの無が入っているからだだと思います。ひとつかみの無とは、説明しつづかない余白であって、読み手に語らせるものということなのです。

新しさは、ときに風変わりな登場人物によってもたらされます。風変わりな人は目立ちます。型にはまっていますから、中心から大きく逸れて、ダイナミックで、予測のつかない動きをします。茶器で言うなら、長次郎ではなく織部でしょうか。ちょっと気弱すぎたり、能天気すぎたり、神経質すぎたり、凝りすぎたり。「ムーミン」を始めとしたフィンランドの文学を挙げてみますと、国民的児童書「ヘイナとトッスの物語」や「リストとゆかいなラウハおばさん」の登場人物たちは皆そうですし、少女向けの児童小説「レベッカ」の長くつ下のピッピのように前向きな島育ちの主人公もそうです。あるいは、世界に多角的にアプローチし、夢とうつつの境をまぎらかすレーナ・クルーンの幻想世界の担い手たちも、いっぼう変わっています。

これらの織部な人たちは完璧ではなく、はみだしています。でも、だからこそ、人間的な温かみを感じます。しかし、ピッピのように超人的にはみだしているわけではなく、日常に足をかけながらも、ひとつかみの無を握っているだけです。そのひとつかみの遊び心があるからこそ、想像力がとても豊かで、モノやコトを発見する喜びを知っています。彼らは、目の前で起こる出来事や変化しつづける新しい現実を受け入れて、そこから関係を築き、明日につなげる開放的なアウトサイダーたちです。

自然と対立するのではなく、自然と交渉しながら文化を築いてきたフィンランドだからこそ、揺らぎをもった文学が生まれたのだと思います。それは、可塑的な無を抱きながら、現在を生きる日本人にとって、とても近しく惹かれる文学だと、私は考えます。

※上記の資料はすべて立教大学図書館で所蔵(予定含む)しています。

おしえてライブラリー

第7回

洋書にトライしてみたいのですが、初心者でも読みやすい英語の資料はありますか…?

池袋キャンパスでは、図書館本館を入ってすぐの前方左側に洋書コーナーがあります。ここでは、英語を中心に名作や話題の読み物、ペンギンブックスなどを揃えています。中でもペンギンリーダーズは、レベル別に収録Word数が設定されており、自分の英語力に合わせて段階的に英語に触れることができます。新座図書館でも、「A Very Short Introduction」という教養シリーズを設置予定です。

読書の秋、この機会に洋書で名作に触れてみてはいかがでしょうか?

*レベルeasystarts, 1-4は本館、レベル5-6は社系図書館にあります。



図書館本館 洋書コーナー



ペンギンリーダーズ*

INFORMATION

～OPACからの取り寄せ・予約サービス開始～

9月1日より池袋⇄新座キャンパス間の取り寄せや貸出中の資料への予約が、OPAC画面上から申込可能になりました。これら以外のいわゆる「キープ予約」(書架にある本のとりおき)はできません。新座保存書庫の資料は、どの館にも取り寄せることができます。また、製本雑誌は新座保存書庫所蔵のもののみ、取り寄せて館内で利用できます。ぜひご利用ください。



CONTENTS

②-③

北欧に学ぶ

～知識社会を豊かに生きる力～

④

読書ナビ
おしえてライブラリー
INFORMATION

Your Library 第7号(通号66)

発行日 2009年10月22日 連絡先 TEL 03-3985-2628

編集 井川 充雄(図書館副館長) E-mail your_library@ml.rikkyo.ac.jp

発行人 石川 巧(図書館長)

発行 立教大学図書館

http://www.rikkyo.ac.jp/research/library



メールにて、みなさん
ご意見、ご感想を
ぜひお寄せください。

今回は、図書館で初めて正課授業に取り組んだ全カリ科目「北欧に学ぶ」を特集しました。北欧(なかでもフィンランド)では、図書館は人々の生活の一部として大変身近な存在となっています。立教大学図書館も北欧に学び、皆さんの「知」をつなぐ空間として、居心地のよい場にしていきたいと考えています。

北欧に学ぶ ～知識社会を豊かに生きる力～

図書館では、リテラシー分野について多面的に知識を深めることは、自学自習の姿勢や自立した人間の育成につながると考えています。そこで、情報検索スキルの教授といったテクニカルな視点ではなく、情報との上手な付き合い方について多面的に学べる機会を提供したいと考えました。その一つの取り組みとして、2009年度前期全カリ総合B群にて次のような教養科目を展開しました。今回は、PISA（OECD学習到達度調査）で高順位を獲得し、図書館文化や生涯学習教育の盛んな「北欧」に焦点をあて、広く北欧の文化・社会への学びを通して、知識社会に必要なリテラシー涵養のヒントを探っていました。

授業概要（2009年度前期開講） *敬称略

科目名	北欧に学ぶ～知識社会を豊かに生きる力～
担当	コーディネーター：小川有美（法学部教授） サブコーディネーター：松下慶太（兼任講師）、菅沼隆（経済学部教授）
開講キャンパス	池袋キャンパス
開講時間	水曜 2限
受講者数	約260名
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 北欧の文学（末延弘子：フィンランド文学翻訳家） 3. 北欧の教育（松下） 4. 北欧と環境・平和（小川） 5. スウェーデンの社会システム（中間真一：ヒューマンルネッサンス研究所） 6. 北欧のIT（工藤繁登志：フィンランド技術庁） 7. 北欧の芸術（新田ユリ：指揮者） 8. ノルウェーの社会システム（岡本健志：前ノルウェー王国大使館勤務） 9. フィンランドの教育と図書館（藤森聡美：信州大学大学院医学系研究科） 10. フィンランドの読解力とPISA（西島徹：読売新聞記者） 11. 日本の教育と生涯学習（近藤弘：文学部教授） 12. 知識社会と大学図書館（芦田祥子・宮尾香奈子：図書館職員） 13. まとめ



担当：小川有美教授



授業風景

内容紹介

この授業では、北欧に関連し各分野で活躍されている多彩なゲストを毎回お迎えし、オムニバス形式で進めていきました。また、図書館リソースも各回の内容に沿って、スポット的に織り込んでいきました。ここでは、授業の一部をご紹介します。



授業風景（4月29日）

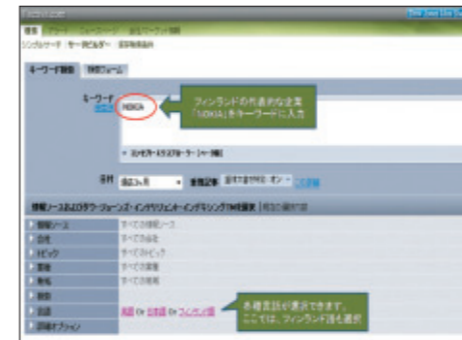
◆ 北欧の教育 松下慶太先生

第3回「北欧の教育」（4月29日）では、主にフィンランドの教育制度についてお話をうかがいました。フィンランドでは、全ての子供に等しく同じ教育を提供することを基本にしています。義務教育だけでなく、大学や専門学校まですべての学校の学費は税金で賄われており、教育を無料で受けることができます。学びの場においては、各人の理解度や希望によって留年することもあります。学びの場においては、各人の理解度や希望によって留年することもあります。それはマイナスイメージではなく、むしろ個人個人の自由な選択として肯定的に捉えられています。また進学・就職で一つの進路を選んだ後も、別の学校に進学し直したり、学び直したりと方向転換が容易にできるのも特徴です。

図書館リソースの紹介

図書館で契約しているオンラインデータベース「Factiva」を紹介しました。

- **Factiva（ファクティバ）とは**
世界各国の主要な新聞、ニュース、企業情報、マーケット情報など多岐に渡るビジネス情報を提供。159ヶ国から22言語で提供される25,000以上の情報ソースのデータベースを横断的に検索できます。
- **アクセス方法（同時アクセス数3）**
図書館ウェブサイト ▶ オンラインデータベース ▶ 主題別：新聞 ▶ Factiva
- **たとえば、携帯電話分野で世界最大のシェアを誇る「NOKIA」について探す…**



Factiva検索画面



Factiva新聞記事の画面

◆ 北欧の芸術 新田ユリ先生

第7回「北欧の芸術」（6月3日）では、指揮者の新田ユリ先生をお迎えし、北欧の音楽についてお話をうかがいました。クラシック音楽の系譜からはじまり、北欧の作曲家、なかでもシベリウスを中心に様々な作品を紹介いただきました。実際に音楽を聴き、楽譜を見ながらの講義は臨場感にあふれ、北欧の音楽の世界観が「森と湖」というフィンランドの自然のイメージと一体となって目の前に浮かびあがってくるような講義でした。



授業風景（6月3日）

図書館リソースの紹介

図書館で契約しているオンラインデータベース「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」を紹介しました。

- **ナクソス・ミュージック・ライブラリー（NAXOS MUSIC LIBRARY）とは**
クラシックを中心に27万曲（2008年4月現在）を収録する音楽データベース。Naxosをはじめ、Chandos, Hungaroton, BIS, Macro Polo, Vanguard, VOXなど71レーベルが参加。
- **アクセス方法（同時アクセス数5、リモート可）**
図書館ウェブサイト ▶ オンラインデータベース ▶ 主題別：音楽 ▶ ナクソス
- **たとえば、フィンランドを代表する作曲家「シベリウス」を聴く…**



Naxos検索画面（シベリウス）



Naxosアルバム再生画面

授業を振り返って（図書館）

この授業は、課題レポートや筆記試験もあり厳しい科目でしたが、学生は毎回熱心に受講していました。大変静粛で緊張感のある授業だったのが印象的でした。図書館が提供するデータベースの紹介や、「北欧諸国に関する図書、新聞や雑誌記事を読んで、内容紹介と自分なりの考察を述べる」という課題レポートなど、授業と図書館をつなぐ一つのモデル

を見出せたことは、図書館にとっても大変意義深いものとなりました。最後になりましたが、この授業の趣旨にご賛同いただき、コーディネーターをお引き受けいただきました小川先生、松下先生、菅沼先生はじめ、各ゲストスピーカーの皆様がこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。